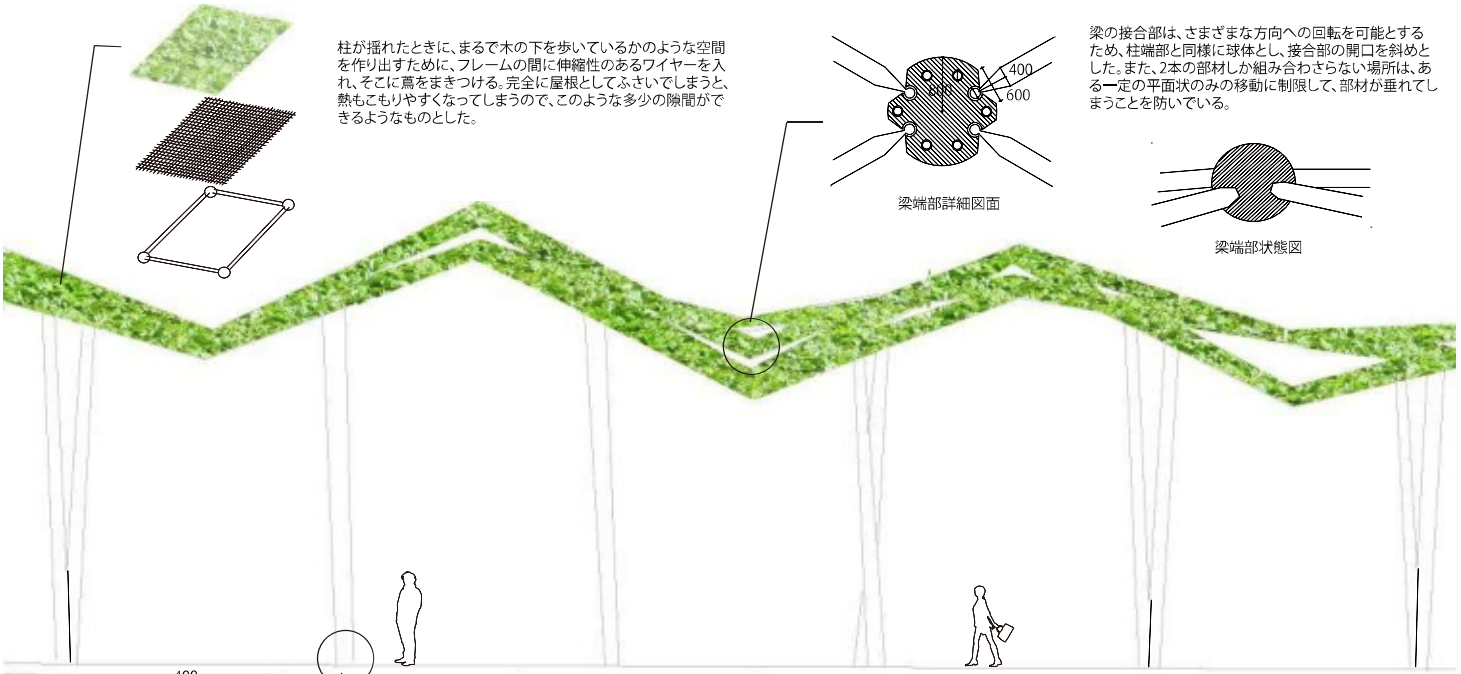
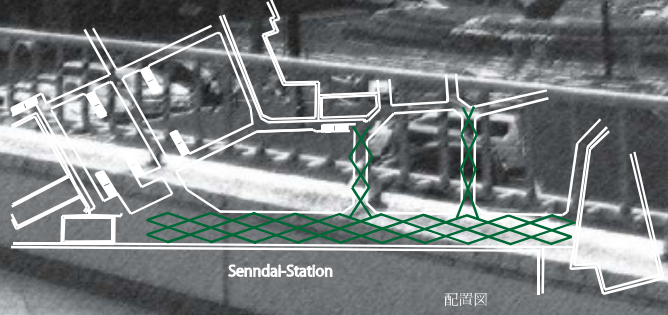
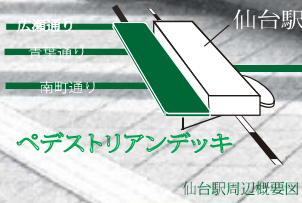
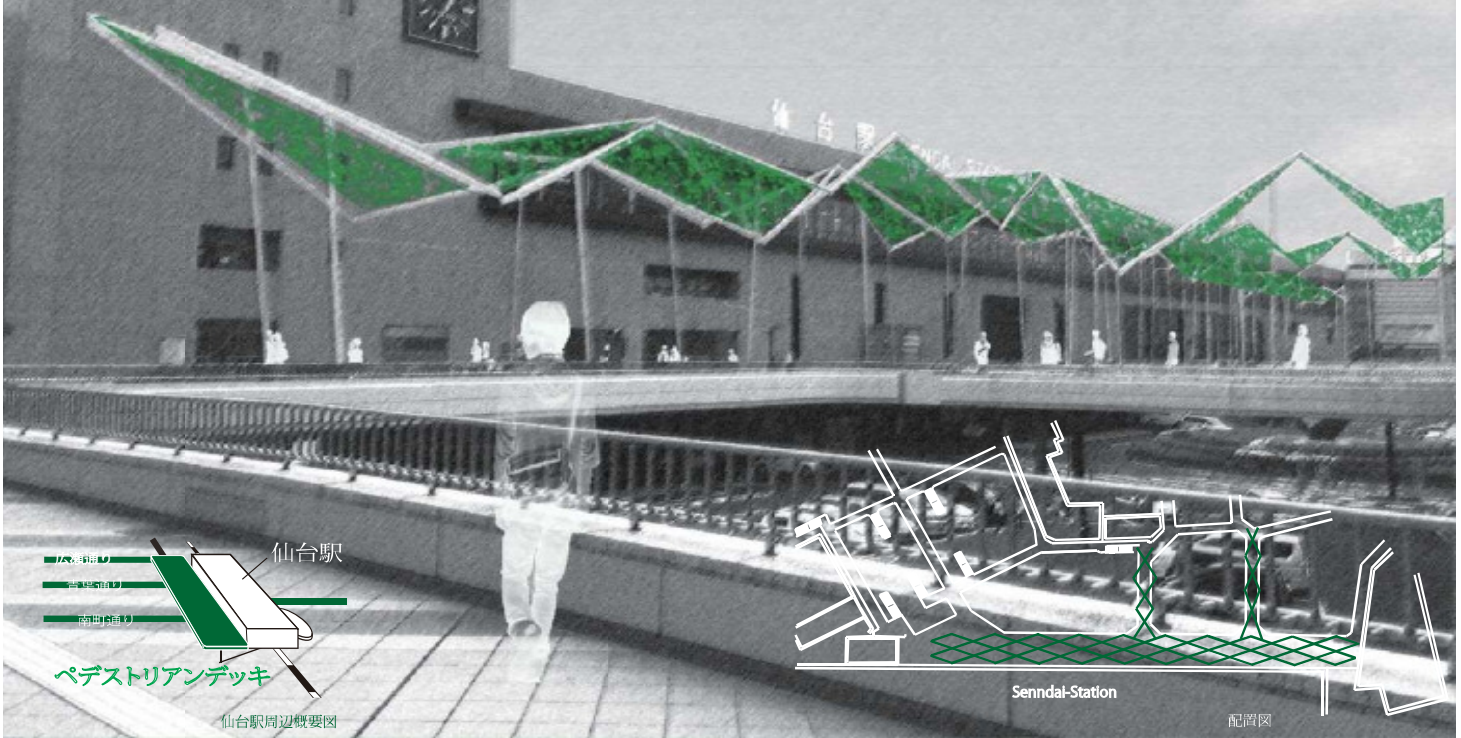


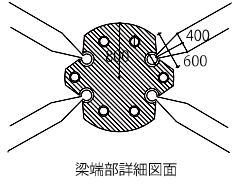
2015学生の部  
最優秀賞受賞作品

# 杜の繋ぎ目

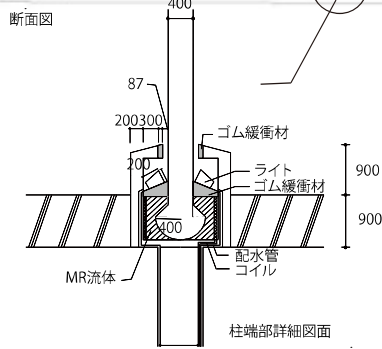
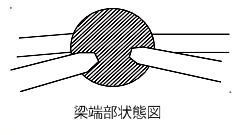
その町に暮らす人々が協力し合い、長い年月をかけて育ててきた豊かな緑を「杜」という。そんな「杜」の都と称される仙台には、けやき並木の美しい通りが何本も通っている。しかし、仙台の往來の中心を担う仙台駅は東西に延びたけやき並木を遮断してしまい、その美しさと調和しているとは言い難い。そこで、仙台駅の重厚さを作り出していると感じる西口のペDESTリアンデッキに屋根をかけることで、駅とまちを調和させ、駅とまちの関係をよりよいものとする。「杜」をモチーフとしたこの屋根には、形と動きによる軽さをつくり、駅のもつ重厚さを和らげ、駅とけやき通りをゆるやかにつなぐ。



柱が揺れたときに、まるで木の下を歩いているかのような空間を作り出すために、フレームの間に伸縮性のあるワイヤーを入れ、そこに薦をまきつける。完全に屋根としてふさいでしまうと、熱もこもりやすくなってしまいうので、このような多少の隙間ができるようなものとした。



梁の接合部は、さまざまな方向への回転を可能とするため、柱端部と同様に球体とし、接合部の開口を斜めとした。また、2本の部材しか組み合わさらない場所は、ある一定の平面状のみの移動に制限して、部材が垂れてしまうことを防いでいる。



柱の端部が球体であるため回転することができ、この傾きを開口幅によって制御する。また、MR流体とコイルが周りに入れてあるため、緊急時には電流を流すことで、柱端部を固定し、揺れと回転を抑えることが可能となる。さらに、柱端部にライトを入れており、夜の駅前に幻想的な風景を作り出す。

